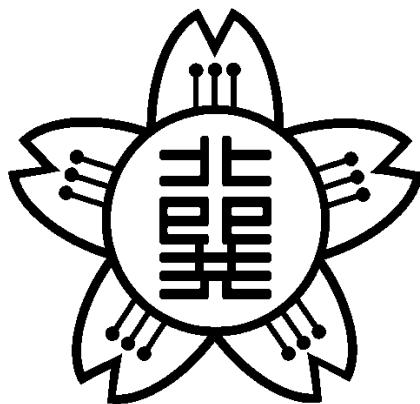


令和5年度

「運営に関する計画」



大阪市立 北翼 小学校

令和6年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○北巽小学校においては、「自尊感情の低さ」「荒れる子ども」「学力の低さ」が課題と考えられ、令和 3 年度より「学校全体で取り組むポジティブ行動支援（S W P B S）」を取り組んでいる。令和 4 年度より「エビデンスベースの学校改革」モデル校となり、さらに学力向上や生活指導上の問題等の学校教育課題解決ができる学校組織づくりを進めていった。また、「学力向上支援チーム事業」重点支援校となり、学びサポーターの活用や放課後学習指導等にも取り組んでいった。

○【安全・安心な教育の推進】について

学期に 1 回、「いじめを考える週間」を設定した。毎月の「いじめ不登校等防止対策委員会」で、いじめ・不登校・その他問題行動等について情報共有し、解決に向けての共通理解を図った。S W P B S の取り組みを進めていったことにより、「自尊感情の低さ」を克服することができていった。不登校児童の課題については、今後も S C や S S W 、区役所の子育て支援室等と連携した取り組みを継続していく。

○【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

タブレット等 I C T の活用によって、児童の考えを深めたり、広げたりする交流活動を大切にしていった。学びサポーターや特別支援教育サポーター等複数人数での指導、T・T や習熟度別少人数指導等により、「わかる授業」の指導方法を工夫していった。学習意欲は高まってきているが、基礎学力の定着や学力向上にはまだまだ課題がある。

体育科の授業で、児童の運動意欲を高めるために、指導内容を工夫していった。年間を通じて、「元気モリモリランド」や「耐寒運動（かけ足、なわとび運動）」等学校全体で取り組んでいた。保健指導・食に関する指導や食育週間、「元気モリモリ週間」等で、早寝・早起き、朝ごはん、進んで運動を行うことができるよう取り組んでいた。保護者の協力が必要で、保健だより、給食だより、食育通信やホームページ等により、家庭の啓発を継続していく。

○【学びを支える教育環境の充実】について

算数科の授業だけでなく、国語科や外国語科においても考える段階での交流場面で、タブレット等 I C T 機器を効果的に活用できるようになってきている。さらに、I C T 機器の活用方法について、教職員間で研修や日々の情報交流によって指導力を高めていく機会を増やしていく。読解力の向上においても、読書活動を工夫していく必要がある。

○令和 7 年度に向け、全市共通目標のそれぞれの項目で成果が出るように、「エビデンスベースの学校改革」「学力向上支援チーム事業」の取り組みを推進していく。2 つの事業を継続、融合しながら、本校の教育課題を解決できるようにしていきたい。同時に、学校力を向上させるとともに、教職員の資質向上も図っていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

(中) 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(中) 毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(中) 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(中) 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、92%以上にする。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(中) 令和7年度の校内調査の「災害が起こった時に安全に行動できるか考えている」について、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(中) 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいことがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

(中) 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

(中) 令和7年度の校内調査の「あいさつや遊び、歌などを通して、身近な国の文化や伝統に触れている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

(中) 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率でIV区分の児童の割合を、いずれの学年も令和3年度より、5ポイント減少させる。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

(中) 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、35%以上にする。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

(中) 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、5ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(中) 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(中) 特に課題である「立ち幅跳び」の記録を、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、全国の記録を上回る。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(中) 令和7年度末の校内調査の「学年に応じた決まった時間に寝ている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。「朝7時までに起きている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(中) 令和7年度末の校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

(中) 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者端末を活用して、学習している」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、100%にする。

【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

(中) ゆとりの日については、週1回以上設定する。

【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

(中) 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

【基本的な方向8 生涯学習の支援】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

(年) 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(年) 令和5年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度より減少させる。【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(年) 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(年) 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(年) 令和5年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起りうる事として考えて行動できた」について、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

(年) 令和5年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいことがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

(年) 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

(年) 令和5年度の校内調査の「あいさつや遊び、歌などを通して、身近な国の文化や伝統に触れている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、70%以上にする。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント上昇させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。（昨年度は79.3%）

- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的「好き」と回答する児童の割合を73%以上にする。

学校園の年度目標

(年) 令和5年度の小学校学力経年調査の平均正答率 IV区分の児童を、いずれの学年も前年度より、1ポイント減少させる。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

(年) 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。

【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

(年) 令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より1ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(年) 令和5年度の小学校学力校内調査の「体を動かして遊ぶことが好きだ」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(年) 令和5年度、1学期（5月のスポーツテスト）と2学期（11月）に、「立ち幅跳び」の記録をとり、5月の記録に比べて、平均値5cm以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(年) 令和5年度末の校内調査の「学年に応じた決まった時間に寝ている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。「朝7時までに起きている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(年) 令和5年度末の校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を、80%以上にする

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ICTの活用に関する目標を設定する。
校内調査の「日々の授業の中で学習者端末を活用して、学習している」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- ・教職員の働き改革に関する目標を設定する。
ゆとりの日を月2回設定・実施する。

学校園の年度目標

(年) 令和5年度末の校内調査の「タブレットなどICTを活用した活動を毎日している」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

【基本的な方向6 教育D x（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

(年) 令和5年度、ゆとりの日については、月に2回以上に設定する。

〔基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〕

(年) 令和5年度の校内調査の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、70%以上にする。

〔基本的な方向8 生涯学習の支援〕

3 本年度の自己評価結果の総括

○北翼小学校においては、「自尊感情の低さ」「荒れる子ども」「学力の低さ」が課題と考えられ、「学校全体で取り組むポジティブ行動支援（SWPBS）」を取り組んでいる。「エビデンスベースの学校改革」モデル校となり、さらに学力向上や生活指導上の問題等の学校教育課題解決ができる学校組織づくりを進めていった。また、「学力向上支援チーム事業」重点支援校となり、学びサポーターの活用や放課後学習指導等にも取り組んでいった。

○【安全・安心な教育の推進】について

学期に1回、「いじめを考える週間」を設定した。毎月の「いじめ不登校等防止対策委員会」で、いじめ・不登校・その他問題行動等について情報共有し、解決に向けての共通理解を図った。個々には成果は出ているが、組織的な取り組みができるように総括する必要がある。不登校児童の課題については、今後もSCやSSW、区役所の子育て支援室等と連携した取り組みを継続していく。

○【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

タブレット等ICT機器の活用によって、児童の考えを深めたり、広げたりする交流活動を大切にすることができます。授業研究会だけでなく校内研修等教職員間でICT機器活用技能について共有し、学校として系統立てた取り組みができるようにする。学びサポーターや特別支援教育サポーター等複数人数での指導、T・Tや習熟度別少人数指導等により、「わかる授業」の指導方法を工夫していったが、十分ではなかった。学習意欲は高まってきているが、基礎学力の定着や学力向上にはまだまだ課題がある。

体育科の授業で、児童の運動意欲を高めるために、指導内容を工夫していった。年間を通じて、「元気モリモリランド」や「耐寒運動（かけ足、なわとび運動）」等学校全体で取り組んでいった。保健指導・食に関する指導や食育週間、「元気モリモリ週間」等で、早寝・早起き、朝ごはん、進んで運動を行うことができるよう取り組んでいった。保護者の協力が必要で、保健だより、給食だより、食育通信やホームページ等により、家庭の啓発を継続していく。

○【学びを支える教育環境の充実】について

算数科の授業だけでなく、国語科や外国語科においても考える段階での交流場面で、タブレット等ICT機器を効果的に活用できるようになってきている。さらに、ICT機器の活用方法について、教職員間で研修や日々の情報交流によって指導力を高めていく機会を増やしていく。読解力の向上においても、読書活動を工夫していく必要がある。

○令和7年度に向け、全市共通目標のそれぞれの項目で成果が出るように、「エビデンスベースの学校改革」「学力向上支援チーム事業」の取り組みを推進していく。2つの事業を継続、融合しながら、本校の教育課題を解決できるようにしていきたい。来年度からは、「総合的な読解力」が取り入れられるようになる。また、カリキュラムマネージメントの観点から、各教科の年間計画を作成する必要がある。

(様式2)
大阪市立北巽小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】	
全市共通目標(小・中学校)	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 	
学校の年度目標	
<p>(年) 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。</p>	
<u>〔基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〕</u>	
(年) 令和5年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度より減少させる。	
<u>〔基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〕</u>	
(年) 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。	B
<u>〔基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〕</u>	
(年) 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。	
<u>〔基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〕</u>	
(年) 令和5年度の校内調査の「災害が起った時に安全に行動できるか考えている」について、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。	
<u>〔基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〕</u>	
(年) 令和5年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいことがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	
<u>〔基本的な方向2 豊かな心の育成〕</u>	
(年) 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「人の役に立つ人になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	
<u>〔基本的な方向2 豊かな心の育成〕</u>	
(年) 令和5年度の校内調査の「あいさつや遊び、歌などを通して、身近な国の文化や伝統に触れている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、70%以上にする。	
<u>〔基本的な方向2 豊かな心の育成〕</u>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策①】 色々な場面を通じて、いじめはどんな理由があってもいけないことだという意識や気持ちをはぐくむ。	
指標 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。	B
取組内容②【施策②】 生活指導部会で月に1回、不登校児童についての共通理解をし、複数の教職員で対応していく。	B
指標 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の出席日数の割合を、前年度より増加させる。	
取組内容③【施策③】 「自尊感情の低さ」を克服するために、ポジティブ行動支援の取り組みを進める。	
指標 令和5年度の全国学力・学習状況調査及び校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	A
取組内容④【施策④】 多文化に触れて、それぞれの立場の人の思いについての理解を深める。	
指標 令和5年度の校内調査の「あいさつや遊び、歌などを通して、身近な国の文化や伝統に触れている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。	A
取組内容⑤【基本的な方向番号、名称】 指標	
取組内容⑥【基本的な方向番号、名称】 指標	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 月に一回、実施忘れないように実施日を決め、児童へのいじめアンケートを実施して対応してきたが、校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います」の回答が、指標から4ポイント下回った。 ② いじめ不登校防止対策委員会で、学校全体で共有し取り組んできたが、個によって改善されていることもあるが、そうでないところもある。 ③ 全校でポジティブ行動支援を行い、児童の自尊感情を育んできた。校内調査の「自分には良いところがある」の回答が、昨年度より8ポイント上昇した。 ④ 日頃の生活の中で、身近な国のかいさつに触れ、課程内実践やハギハッキョの活動を通して、民族学級以外の児童も、身近な国について興味をもつことができ、校内調査の「あいさつや遊び、歌などを通して、身近な国の文化や伝統に触れている。」の回答が、指標を8ポイント上回った。	

次年度への改善点

- ① 校内調査の結果から、全学年を通して、最も肯定的な回答をした児童が少なくなった。来年度も月に一回のいじめアンケートを実施して、対応していく。それに加え、学期に一回行う「いじめについて考える週間」において、内容を工夫して児童の実態にあった取り組みにしていく。
- ② 今後も「いじめ不登校防止対策委員会」で共通理解をし、今年度に引き続き学校全体で対応していく。
- ③ 来年度も引き続き取り組んでいく。
- ④ 来年度も引き続き取り組んでいく。

(様式 2)

大阪市立北巽小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小・中学校) ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント上昇させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(昨年度は79.3%) ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的「好き」と回答する児童の割合を73%以上にする。	B
学校の年度目標 (年) 令和5年度の小学校学力経年調査の平均正答率IV区分の児童を、いずれの学年 前年度より、1ポイント減少させる。	
[基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上] (年) 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます」として、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。	
[基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上] (年) 令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より1ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合	
[基本的な方向5 健やかな体の育成]	

(年) 令和5年度の校内調査の「体を動かして遊ぶことが好きだ」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(年) 令和5年度、1学期（5月のスポーツテスト）と2学期（11月）に、「立ち幅跳び」の記録をとり、5月の記録に比べて、平均値5cm以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(年) 令和5年度末の校内調査の「学年に応じた決まった時間に寝ている」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を40%以上にする。「朝7時までに起きている」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を60%以上にする。

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

(年) 令和5年度末の校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を、80%以上にする

【基本的な方向5 健やかな体の育成】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】 基礎的な学習内容の定着と共に、視覚教材（半具体物やデジタル教材）を効果的に用いたり、T・Tや習熟など指導形態を工夫したりするなど、一人ひとりの状況に応じた指導方法の工夫を図る。また、自分の考えを発表したり、書いたりできるような指導方法の工夫も図る。</p> <p>指標 校内調査において学級の友達との間で話し合う活動を通じて、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【誰一人取り残さない学力の向上】 習熟度学習を積極的に取り入れ、学年三分割を実施し、習熟度合に応じた課題の工夫を図る。</p> <p>指標 令和5年度の小学校学力経年調査の平均正答率IV区分の児童を、いずれの学年前年度より、1ポイント減少させる。</p>	A
<p>取組内容③【健やかな体の育成】 元気モリモリ週間や耐寒運動を活用し、運動意欲が高まるよう指導する。</p> <p>指標 令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より1ポイント向上させる。また、令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【健やかな体の育成】 「北翼モリモリランド」「みんな遊び」など中心に、跳ぶ活動を取り入れる。</p> <p>指標</p>	B

<p>令和5年度、1学期（5月のスポーツテスト）と2学期（11月）に、「立ち幅跳び」の記録をとり、5月の記録に比べて、平均値5cm以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【健やかな体の育成】 保健指導や元気モリモリ週間を通して、早寝早起きの習慣の大切さについて指導する。</p>	B
<p>指標 令和5年度末の校内調査の「学年に応じた決まった時間に寝ている」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を40%以上にする。「朝7時までに起きている」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を60%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【健やかな体の育成】 食育週間や給食週間を通して、進んでバランスのとれた朝食をとることができるように指導する。</p> <p>指標 食に関する指導や強調週間の取り組みで朝食の大切さについて理解できるようにする。 給食便りや食育通信、ホームページなどで給食の献立について紹介するとともに朝食への活用の仕方を掲載するなどして、児童及び保護者への啓発を進める。 委員会活動等で簡単な朝食を募集したり、紹介したりして、朝食を食べる意欲を高める。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問への、最も肯定的な回答数の割合は40%で、指標を5ポイント下回った。
- 高学年では、「一人で考えをまとめる時間（書く）→ペア・グループ・全体交流（ノート交換・話し合い）」というような流れでの話し合い活動を多く取り入れるようにしている。学習以外でも、学校行事での話し合いも何度も行っており、学力に課題のある児童も、話し合いに積極的に参加している様子が見られるようになってきた。
- 低学年では個別の対応（宿題の出し方の工夫・机間指導・ノートチェック）に力を入れている。自分で考えをまとめられない児童には話し合いをすることで友だちの意見を参考にしていることができている。
- ICT活用は低学年では、記録写真の撮影やNHKforSchoolにおいて活用するが多い。高学年や委員会活動では、コラボノートやパワーポイントなど作品作成でも活用している。特別支援学級ではNHKforSchoolが有効であった。また、保健指導でもパワーポイントを活用し、効果的な指導に努めている。
- ② 高学年では習熟度別学習を積極的に取り入れ、レディネステストを行ったりコース希望アンケートを取ったりしながら進めている。特に課題のある児童に対して確認プリントをテスト前に配付した。
- 校内調査「国語の授業がわかる。」に対して肯定的に回答する児童の割合は年度当初の85%から91%に増加し、大半の児童は「分かる」という実感を持つことができているといえる。放課後学習では、特に学力に課題のある児童を対象に実施しており、児童1～3人に対して指導者が1人つくような体制を整えることができている。
- ③ 今年度の、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、53.4%から54.1%と、前年度より0.7ポイント増加したものの、目標にはわずかに届かなかった。そのため、来年度当初から体力テストに向けた取り組みを実践していく必要

がある。

校内調査「運動が好きだ。」の前年同期比は最も肯定的に回答する児童が 67%から 71%に 4 ポイント増加していた。

さらに今年度は、耐寒運動をたてわり班で行ったため、班の中で交流をもちながら縄跳びをすることができ、運動への意欲も高まった。体育科での指導をはじめ、学級でのみんな遊びや運動委員会による元気モリモリ週間を通して運動する楽しさを実感させることで、好ましい運動習慣がつくような指導を今後も引き続き行っていく。

④ 体育の時間のはじめにルーティーンとして縄跳び運動を取り入れている。また、毎学期に 1 度ずつ、運動委員会による「北翼モリモリランド」を実施し、長縄運動やラダー運動をする場を設定している。また、なわとびカードを低・中・高別で活用できたことで、児童は自分の目標を明確にたてることができたため、なわとびへの意欲も高まった。

⑤ 校内調査「学年に応じた決まった時間に寝ている」に対して最も肯定的に回答する児童の割合は年度当初の 38%から 35%に減少し、年度目標を 5 ポイント下回っている。

「朝、7 時までに起きている」に対して最も肯定的に回答する児童の割合は年度当初の 65%から 54%に減少し、年度目標を 6 ポイント下回っている。

保健指導や各種委員会の活動を通して、早寝早起きの習慣の大切さについての啓発を行っていく。

⑥ 校内調査「毎日、朝食を食べている。」に対する肯定的意見は 87%であった。毎日更新している学校ホームページ（給食について）に朝食紹介の記事も掲載し、学級で閲覧することで意識づけを行った。また、これからも健康・給食委員会で啓発を続けていく。生活目標と合わせた委員会からの啓発動画も作成し、全校児童への朝食の大切さを伝えることができた。

次年度への改善点

① 上記の指導を継続していく。考えを深めたり広げたりするためには語彙力が必要であることから、図書の時間を軸に読書活動の大切さについても指導を重ねていく。図書の時間を活用した低学年への読み聞かせにも児童は意欲的だった。

話す指導については様々な工夫を行ってきてるので、友だちの作品や文章を読むことにも力を入れていく。

② 習熟度別学習に対しても児童は意欲的であるので、指導を継続していく。放課後学習で特に課題のある児童への対応は行うことができた。

③ 耐寒運動は今後もたてわり班で行っていきたいが、寒い時期に行うため、運動量の確保を検討していくべき。

④ 「立ち幅跳び」の計測を今年度の 2 学期に行うことができなかつたため、比較できなかつた。来年度は能力の向上を比較できるよう取り組んでいく。

さらに、「北翼モリモリランド」や「耐寒運動」などを通して、「跳ぶ力」を鍛えてきたが、学校全体としてはまだ不足しているため、脚の力を強化できる取り組みを検討していく。なわとびカード（低）が低学年にとっては扱いが難しかつたため、使い方を改善していく必要がある。

⑤ 学年だよりやほけんだより等へ早寝早起きについての内容を掲載し、啓発を行っていく。健康委員会の健康調べの実施方法については検討する余地がある。

⑥ 同様の啓発を粘り強く継続して行っていく。

(様式 2)

大阪市立北巽小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T の活用に関する目標を設定する。 校内調査の「日々の授業の中で学習者端末を活用して、学習している」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。 ・ 教職員の働き改革に関する目標を設定する。 ゆとりの日を月 2 回設定・実施する。 <p>学校の年度目標</p> <p>(年) 令和 5 年度末の校内調査の「タブレットなど ICT を活用した活動を毎日している」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。</p> <p>[基本的な方向 6 教育 D x (デジタルトランスフォーメーション) の推進]</p> <p>(年) 令和 5 年度、ゆとりの日については、月に 2 回以上に設定する。</p> <p>[基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり]</p> <p>(年) 令和 5 年度の校内調査の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>[基本的な方向 8 生涯学習の支援]</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 D x (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 学習者端末を、授業を中心とした様々な場面で活用し、児童が学習の中で効果的に活用できるよう指導する。	A
指標 デジタルドリルや心の天気、タブレット端末を利用したアンケートの実施などを中心として、ほぼ毎日学習者端末を活用する。	A
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 会議の効率化や業務の精選を行い、働き方の改革をすすめる。	B
指標 ゆとりの日には、臨時の会議などを入れず、ゆとりの時間を確保する。	B
取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 日々の朝読書を中心とし、児童が読書に興味を持つことができるよう図書室開放や読み聞かせ等の活動を行う。	A
指標 委員会活動で読み聞かせや図書週間の取り組みを学期に 1 度行ったり、図書館司書や地域の図書館指導員に読み聞かせをしてもらったりする。	A

取組内容④【基本的な方向番号、名称】	
指標	
取組内容⑤【基本的な方向番号、名称】	
指標	
取組内容⑥【基本的な方向番号、名称】	
指標	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① どの学年もほぼ毎日心の天気の入力をはじめ、各種アンケート調査やデジタルドリル、発表などの利用でタブレット端末を使用することができ、アンケート結果も81%と目標に達している。</p> <p>② 臨時の会議などは緊急の場合以外入らないようにしている。</p> <p>③ 委員会活動で読書週間の取り組みや図書室でスタンプラリーのイベント活動を通して、児童が読書に興味を持てるように取り組んだことで、アンケート結果でも85%で目標を達成することができた。</p> <p>図書館司書の方が来られる日には低学年の図書の時間を設定して、読み聞かせを行つてもらったり、あじさいブッククラブの方による読み聞かせを活用したりして、読書に触れる機会を意識的に設けてきたことで、児童たちも本に親しむことができてきた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① どの教員も使えるようにタブレット端末の活用研修を計画的に行うようとする。</p> <p>② 会議の内容や進め方などを工夫して、短時間で効率よく終えることができるようとする。</p> <p>③ 朝の時間やすき間時間などを活用して、読書に触れるようにする。委員会の活動も、もう少し工夫したい。</p>	